

令和2年度 3学期

東大阪市標準学力調査 考察資料

小学校

調査目的

- 東大阪市内の小学校児童の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上および指導の改善に資する。

調査内容

- 調査目的に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成した。

調査対象

- 東大阪市内の小学校の3・4・5・6年生の児童
- 調査対象教科は、国語・算数

◆用語について

目標値

学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童・生徒の割合。

正答率

各設問の正答率は、その設問に正答した児童・生徒の割合を示したものである。また、教科総合、領域別、観点別等の正答率は、対象設問中の正答率の平均を表す。なお、正答率を算出する上で、短答・記述式問題の準正答（部分点）については、正答数を0.5として計算している。

標準スコア

全国平均の正答率を50とした時の換算値。

小3 国語

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

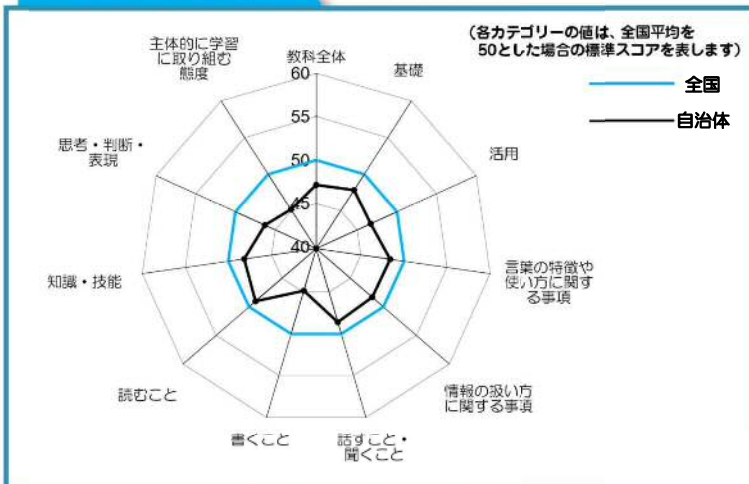
正答率一覧

(単位%)	★=目標値	目標値	自治体	(%)
教科全体	62.7	57.3		
基礎	67.9	64.7		
活用	52.8	43.3		
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	70.0	68.7	
	情報の扱い方に関する事項	51.7	44.8	
	我が国の言語文化に関する事項			
	話すこと・聞くこと	73.8	69.4	
	書くこと	50.0	27.5	
観点別	読むこと	53.3	50.7	
	知識・技能	65.8	63.2	
	思考・判断・表現	57.7	47.9	
	主体的に学習に取り組む態度	55.0	37.9	

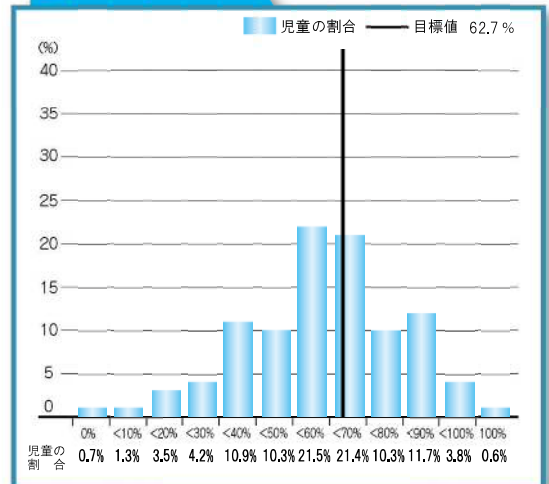
分析 コメント

- 小3国語は、教科全体の正答率が57.3%
- で、目標値を5.4ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「主体的
- に学習に取り組む態度」が37.9%で、目標
- 値を17.1ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

文章を書く

大問7

<ねらい> 段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている。

目標値 50.0% 正答率 23.2% 差 ▲26.8 ポイント

指導のポイント 文章を2段落構成で書くことができるかを見る問題である。「段落に分ける」ことの意味が十分に理解できていないと、文章を組み立てることは難しい。まずは、「段落」という定義を正しく捉えさせることが大切である。その上で、教科書の教材文を意味段落に分けさせたり、一続きの文章を、話題の切り替わりによっていくつかの段落に分けさせたりする練習を積みせるとよい。

インタビューに向けてじゅんぴをする

大問6(2)

<ねらい> 情報と情報との関係について理解し、考えの理由を明確にして書いている。

目標値 40.0% 正答率 26.6% 差 ▲13.4 ポイント

指導のポイント 本問では、手紙の記述が、高野さんの「どんど焼きを田んぼで行っていたときのやぐらがどのようなものなのかを、くわしく知りたい」という発言を踏まえたものであること（基本情報の出所）を捉えなければならない。その上で、手紙で原田さんに伝えたい情報（写真持参の「お願い」とその「理由」）を、分かりやすく記述する必要がある。こうした情報と情報との関係について、授業の中でも指導をしていきたい。また、日常的な授業において、自分の考えを述べさせる際には、根拠や理由付けを明確にさせることが大切である。

小3 算数

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

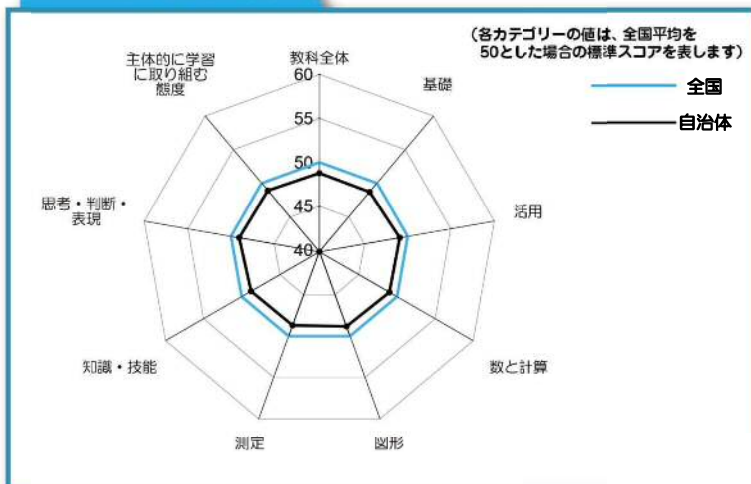
正答率一覧

		目標値	自治体	(%)
教科全体		67.2	65.5	★
基礎		75.3	73.4	★
活用		53.8	52.3	★
領域別	数と計算	65.7	64.1	★
	図形	68.3	66.5	★
	測定	70.6	68.8	★
	データの活用			
観点別	知識・技能	72.7	71.4	★
	思考・判断・表現	50.6	47.9	★
	主体的に学習に取り組む態度	57.8	54.9	★

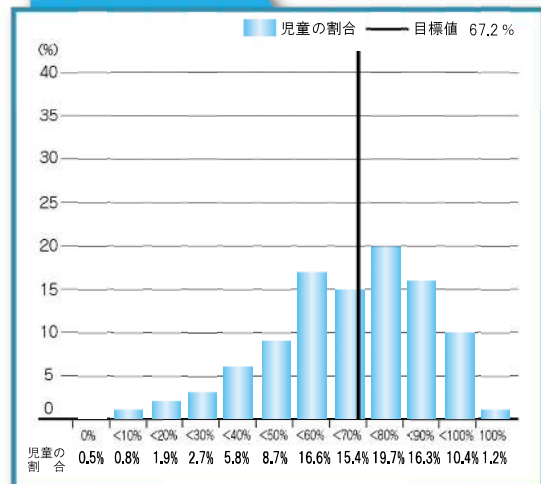
分析コメント

- 小3算数は、教科全体の正答率が65.5%
- で、目標値を1.7ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「主体的
- に学習に取り組む態度」が54.9%で、目標
- 値を2.9ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

かけ算

大問4

<ねらい> 乗法のきまり(分配法則)を理解している。

目標値 75.0% 正答率 63.6% 差 ▲11.4 ポイント

指導のポイント かけ算のきまりはいくつかあり、「かけられる数を分けて計算しても、答えは同じになる」というきまりもその1つである。かけ算のきまりは、教師が一方的に指導するのではなく、九九表から児童が発見できるようにし、アレイ図などでそのきまりが成り立つかを確かめさせる活動が大切である。その際、例えば九の段は、一の位と十の位をたすと9になる、というようなその段固有のきまりと、かけ算すべてについて成り立つきまりとがあるので、教師が的確に区別して指導するとよい。

時こくと時間

大問17(3)

<ねらい> 並び始めてから乗り物に乗り終え、会場に着くまでにかかる時間を求めて、どちらの乗り物に乗れるかを判断している。

目標値 60.0% 正答率 51.9% 差 ▲8.1 ポイント

指導のポイント 日常の事象の問題解決においては、問題場面を数学的な問題として捉えることが大切である。本問の問題場面では、移動時間、待ち時間、乗っている時間の和が20分以内かどうかを判断することになる。日常の問題から、解決に必要な数値を取り出し、解決に必要な演算を決定したりする学習を取り入れていく必要がある。

小4 国語

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

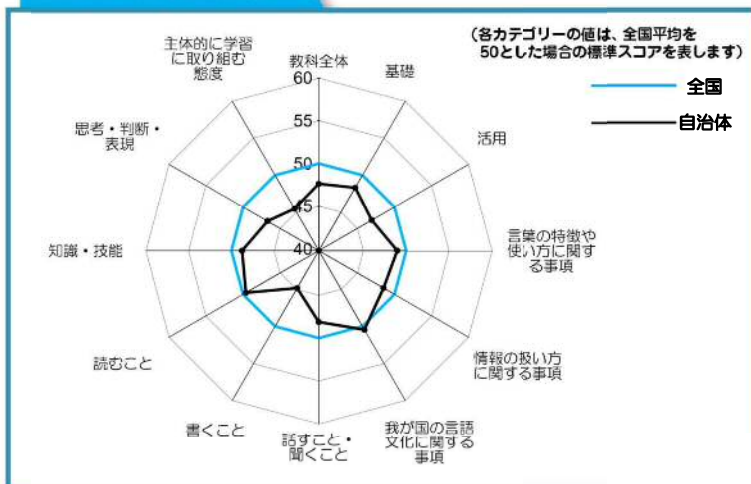
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	
教科全体		64.8	62.0	
基礎		68.9	66.7	
活用		55.6	51.6	
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.0	74.4	
	情報の扱い方に関する事項	50.0	48.3	
	我が国の言語文化に関する事項	85.0	90.2	
	話すこと・聞くこと	59.0	57.8	
	書くこと	56.3	35.9	
観点別	読むこと	55.0	52.8	
	知識・技能	68.3	68.5	
	思考・判断・表現	56.7	49.9	
	主体的に学習に取り組む態度	49.0	35.4	

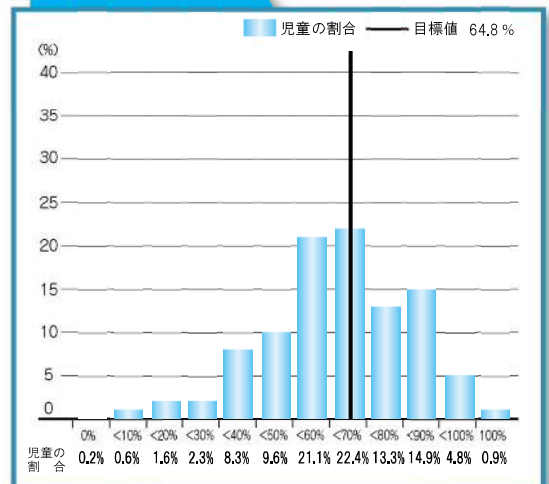
分析 コメント

- 小4国語は、教科全体の正答率が62.0%
- で、目標値を2.8ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「知識・技能」
- が68.5%で、目標値を0.2ポイント上回った。
- 一方、「主体的に学習に取り組む態度」が35.4%で、目標値を13.6ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

文章を書く

大問7

<ねらい> 指定された長さで文章を書いている。

目標値 70.0% 正答率 43.4% 差 ▲26.6 ポイント

指導のポイント ある程度の長さの文章を書くためには、何をどのように書くかという見通しをもつことが必要になる。本問では、そうしたヒントが〈注意する点〉になっている。これを参考にすることで、第一段落と第二段落に何を書かなくてはならないかが分かる。また、児童にとって、書くことの学習で難しいことの一つに、文章の書き出しが挙げられる。問題文にある文言を使えば、書き出しが簡単にできることを、繰り返し指導して習得させたい。

説明文の内ようを読み取る

大問5(1)

<ねらい> 情報と情報との関係について理解し、段落相互の関係を捉えている。

目標値 40.0% 正答率 31.3% 差 ▲8.7 ポイント

指導のポイント 段落の役割を理解するためには、①段落ごとの内容を理解しながら、②文章全体で何を主張・説明しているのかを把握した上で、③各段落がその主張・説明のためにどのような働きをしているのかという視点で価値付けをしなければならない。正答できない児童が、①から③のどの段階でつまづいているのかを分析した上で、適切な指導をする必要がある。普段の授業で、段落ごとの内容を簡潔にまとめる習慣、及び接続語や段落の書き出しの一文に注目して段落相互の関係を確認しながら読み進める習慣を身に付けさせておきたい。

小4算数

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

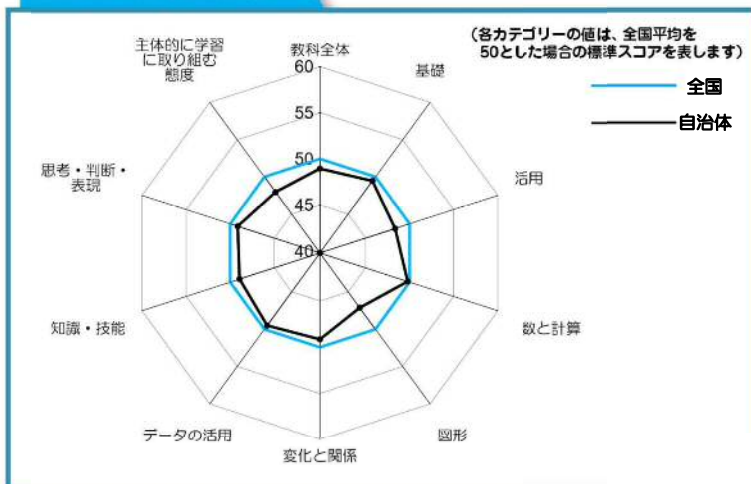
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	(%)
教科全体		62.7	61.2	★
基礎		68.6	68.3	★
活用		51.4	47.5	★
領域別	数と計算	67.6	67.3	★
	図形	60.8	54.4	★
	変化と関係	63.3	65.9	★
	データの活用	41.3	38.6	★
観点別	知識・技能	68.2	66.8	★
	思考・判断・表現	50.5	48.7	★
	主体的に学習に取り組む態度	45.0	38.7	★

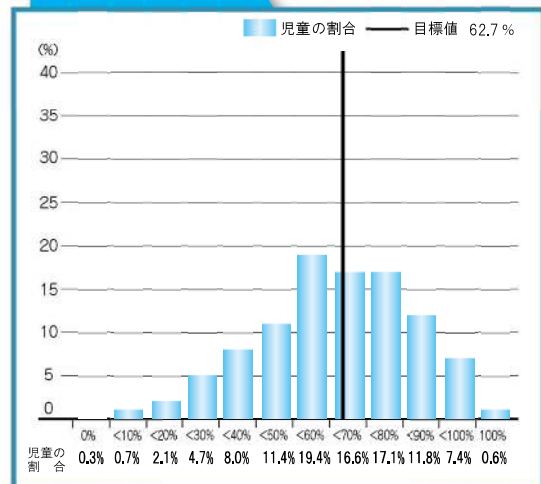
分析コメント

- 小4算数は、教科全体の正答率が61.2%で、目標値を1.5ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「主体的に学習に取り組む態度」が38.7%で、目標値を6.3ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

垂直・平行と四角形

大問15

<ねらい> 平行四辺形の作図ができる。

目標値 60.0% 正答率 39.0% 差 ▲21.0 点

指導のポイント 平行四辺形は、向かい合った2組の辺の長さが等しく、平行であることを理解させたい。この性質が理解できていれば、既にかかっている2辺に続けて正しい辺をかくことができるだろう。図形の指導においては、定義や性質、作図の学習だけではなく、学習した図形を切り取らせたり、敷き詰めさせたりするなど、操作的活動を取り入れることが大切である。そうした活動を通して、図形への理解を深めさせていく必要がある。

わり算

大問5

<ねらい> 除法の筆算に出てくる数の意味を理解している。

目標値 55.0% 正答率 39.9% 差 ▲15.1 点

指導のポイント わり算の筆算の指導では、はじめに10の束を等分し、次にばらを等分するという操作を行う。このとき、10の束を等分したときの商が十の位に立つ。本問では、7束のうち6束が等分されたことになる。このように、操作と形式的な筆算とを結び付けながら指導し、筆算の意味を理解できるようにさせることが大切である。

小5 国語

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

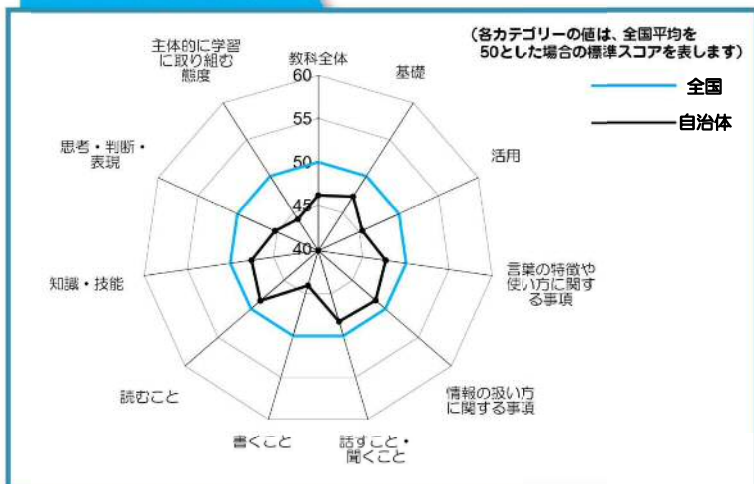
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	(%)
教科全体		66.9	60.1	★
基礎		72.2	67.1	★
活用		55.0	44.4	★
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	67.9	63.9	★
	情報の扱い方に関する事項	42.5	31.9	★
	我が国の言語文化に関する事項			
	話すこと・聞くこと	66.7	66.2	★
	書くこと	69.2	47.7	★
観点別	読むこと	64.2	59.8	★
	知識・技能	64.3	59.3	★
	思考・判断・表現	66.7	56.3	★
	主体的に学習に取り組む態度	63.0	45.0	★

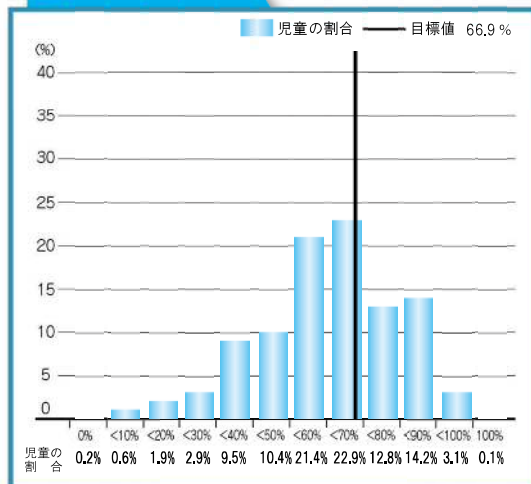
分析 コメント

- 小5国語は、教科全体の正答率が60.1%で、目標値を6.8ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「主体的に学習に取り組む態度」が45.0%で、目標値を18.0ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

文章を書く

大問7

<ねらい> 指定された長さで文章を書いている。

目標値 75.0% 正答率 43.9% 差 ▲31.1 ポイント

指導のポイント 問題で定められた8行以上、10行以内で文章を書くことができるかを見る問題である。書くことの第一段階は、何について書くのか、主題をはっきりさせることである。主題は、次に続く取材や構成、記述などの土台となるため、自分は何について書こうとしているのか、常に立ち止まって主題を確認する習慣を身に付けさせることが大切である。日頃から、200字程度で大事なことを押さえて書く経験を多く積ませるようにしたい。

漢字を書く

大問2(2)③

<ねらい> 第4学年に配当されている漢字を正しく書いている。

目標値 50.0% 正答率 30.5% 差 ▲19.5 ポイント

指導のポイント 送り仮名を間違えやすい漢字については、最初に誤って記憶してしまうとそのままになってしまう傾向が強いので、必要に応じ声に出して読ませるなど、年間を通して正しく書けるように指導することが大切である。また、分からない漢字があれば、その都度辞書などで確認させ、正しい漢字の知識を身に付けさせたい。

小5算数

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

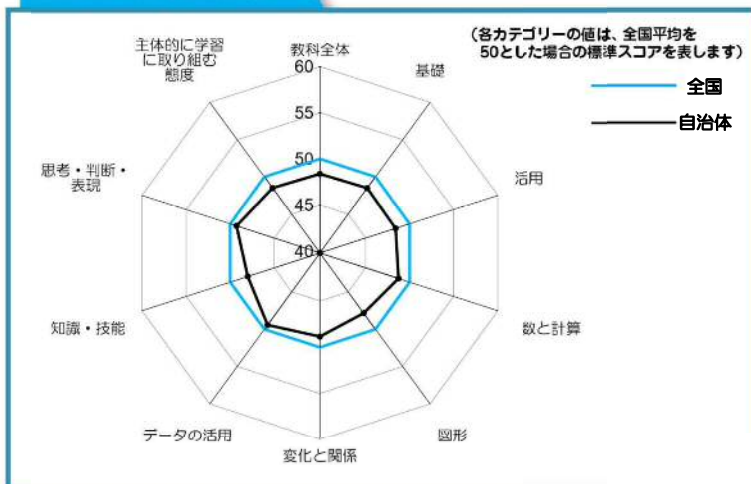
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	
教科全体		63.2	60.0	★
基礎		67.9	65.7	★
活用		50.6	45.0	★
領域別	数と計算	67.3	65.4	★
	図形	63.6	58.8	★
	変化と関係	66.7	66.2	★
	データの活用	31.7	20.8	★
観点別	知識・技能	68.6	65.9	★
	思考・判断・表現	53.8	49.7	★
	主体的に学習に取り組む態度	52.1	46.2	★

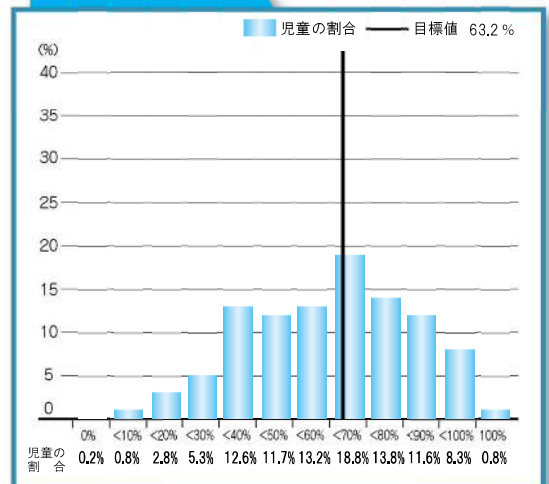
分析コメント

- 小5算数は、教科全体の正答率が60.0%で、目標値を3.2ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「主体的に学習に取り組む態度」が46.2%で、目標値を5.9ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

平均

大問19(2)

<ねらい> 問題の場面を理解し、4人の買い物時間の平均から10人が買い物をするまでにかかるおよその時間を求める方法を説明している。

目標値 30.0% 正答率 14.1% 差 ▲15.9 ポイント

指導のポイント 平均は、いくつかの数量を等しい大きさになるようにならしたものであることを押さえさせたい。本問の問題場面の場合、だいきさんの前に並んでいた4人がジュースを買うのにかかった時間は少しずつ違っているが、平均を用いることで、1人にかかった目安となる時間が分かる。単に平均を求めさせるだけでなく、本問のように、平均を用いると便利な場面があることが分かるように指導することが大切である。

小数のかけ算・わり算

大問7

<ねらい> 小数の乗法でも分配法則が成り立つことを理解している。

目標値 60.0% 正答率 44.6% 差 ▲15.4 ポイント

指導のポイント 計算式を解くとき、計算を始める前に、97という数をほぼ100と見る、9.7という数をほぼ10と見るなど、数を多面的に見ることで、簡単に計算できるようになる。この見方を表したのが分配法則であることを指摘しておきたい。法則を形式的に覚えさせるのではなく、法則のよさが分かるように指導することが大切である。

小6 国語

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

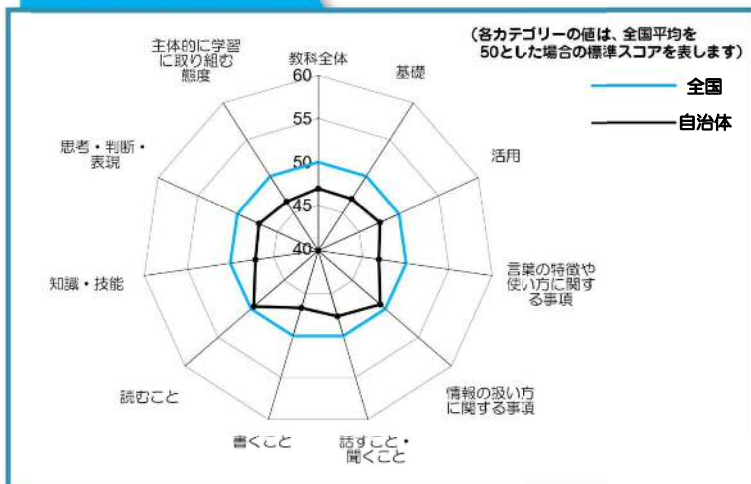
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	(%)
教科全体		66.2	61.7	★
基礎		71.9	68.7	★
活用		57.0	50.5	★
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	65.8	60.8	★
	情報の扱い方に関する事項	45.0	42.9	★
	我が国の言語文化に関する事項			
	話すこと・聞くこと	66.7	63.9	★
	書くこと	67.5	54.4	★
観点別	読むこと	66.7	68.4	★
	知識・技能	62.9	58.3	★
	思考・判断・表現	67.0	61.9	★
	主体的に学習に取り組む態度	56.0	40.1	★

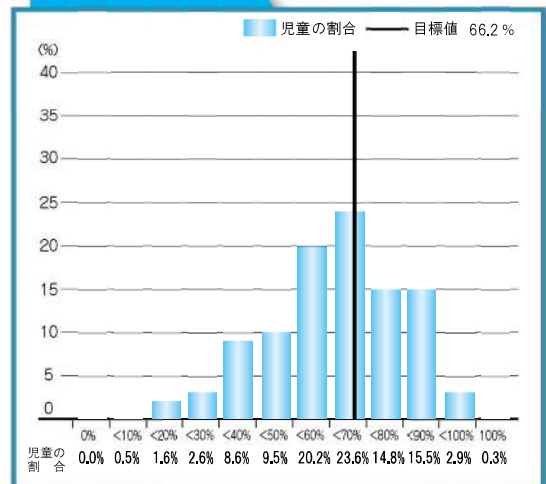
分析 コメント

- 小6国語は、教科全体の正答率が61.7%
- で、目標値を4.5ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「主体的
- に学習に取り組む態度」が40.1%で、目標
- 値を15.9ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

文章を書く

大問7

<ねらい> 事実を基に自分の意見を明確に書いている。

目標値 75.0% 正答率 53.5% 差 ▲21.5 ポイント

指導のポイント 二つ目の段落では、一つ目の段落の内容を受けて、自分の考えを書く。例えば、起きる時刻が早くなるにつれて、朝食を「毎日食べる」人の割合が高くなっていることに着目し、なぜそのような傾向にあるのかを、自分なりに分析して書けばよい。本問では、分析の材料が少ないこともあり、自分の日常生活を基に原因について推測することが考えられるが、原因だけでなく、朝食を毎日食べる人の数をより増やすための対策など、何を書くのかということに対して、さまざまな視点からアプローチすることも可能である。

言葉の学習

大問3(4)

<ねらい> 文と文との接続の関係を理解している。

目標値 30.0% 正答率 10.9% 差 ▲19.1 ポイント

指導のポイント 分かりやすい文章を書くためには、長い一文を二つの文に分けて書いたり、文と文との接続を明確にしたりすることが考えられる。自分が書いた文章を基に、長い一文の解消と明確な接続関係を意識して推敲をさせるとよい。本問では、二つの文に分かれる適切なところが分かれば難しくはない。しかし、敬体で書かれた文章なので、一つ目の文の最後を「わかった。」ではなく「わかりました。」とするように注意させる必要がある。一つの文章の中に、敬体と常体が混じらないように書く指導も、改めて行っていきたい。

小6算数

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

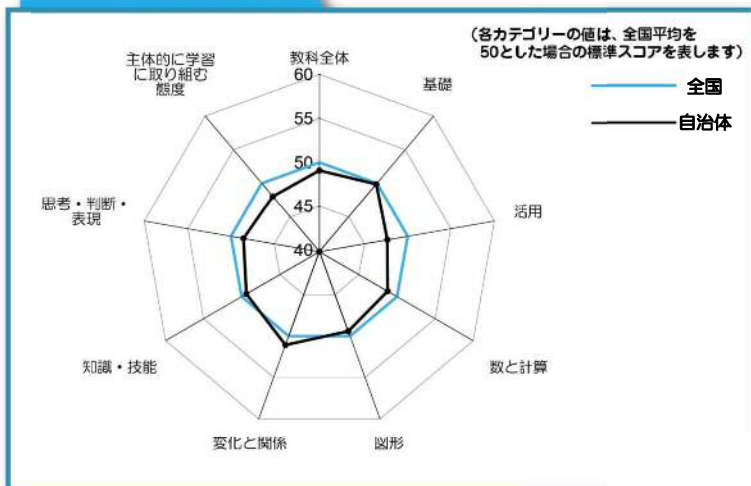
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	(%)
教科全体		66.4	66.4	★
基礎		70.7	72.5	★
活用		55.6	50.9	★
領域別	数と計算	69.3	68.0	★
	図形	63.9	65.5	★
	変化と関係	47.5	54.1	★
	データの活用			
観点別	知識・技能	69.6	70.6	★
	思考・判断・表現	56.9	54.0	★
	主体的に学習に取り組む態度	53.3	49.3	★

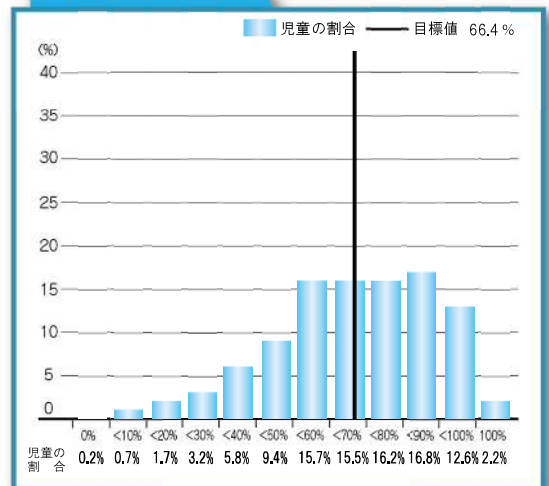
分析コメント

- 小6算数は、教科全体の正答率が66.4%
- で、目標値と同等であった。
- 観点別に正答率を見ると、「知識・技能」
- が70.6%で、目標値を1.0ポイント上回った。
- 一方、「主体的に学習に取り組む態度」
- が49.3%で、目標値を4.0ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

分数のかけ算・わり算

大問6(1)

<ねらい> 1より小さい分数をかける乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表すことができる。

目標値 70.0% 正答率 55.2% 差 ▲14.8 ポイント

指導のポイント 問題場面で扱う数が分数になると、とたんに乗法なのか除法なのか、除法と分かって、どちらの数をどちらの数でわるのかが分かりにくくなる。数直線を用いて、問題場面に出てくる数を整理することで、演算の決定ができるだけでなく、乗数が真分数のときは、積が被乗数よりも小さくなることも説明できる。一度、整数の場面に戻って数直線の仕組みを理解させ、分数に適用できるように指導することが大切である。

拡大図と縮図

大問16(1)

<ねらい> 縮図を使って建物の実際の高さを求め、その求め方を式を使って説明している。

目標値 30.0% 正答率 20.2% 差 ▲9.8 ポイント

指導のポイント 縮図に表すことで、測定が難しい長さなどを求めることができるよさがある。例えば、建物や木の高さなどのような測定しにくいものを、測定しやすい影の長さを使って求めることができることを押さえさせる。また、本問の図のように高度計を目線に合わせて測定した場合は、目線までの長さをたす必要があることに注意させたい。教科書で学習したことが本当にできるのかどうか、実際に試してみても実証する体験活動も大切である。